

1. 評価結果概要表

作成日 平成22年2月20日

【評価実施概要】

事業所番号	0172500191		
法人名	特定非営利活動法人 ロータス会		
事業所名	グループホーム 延寿園		
所在地	余市郡余市町黒川町12丁目3番地 (電話) 0135-22-1132		
評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3 北1条ビル3階		
訪問調査日	平成22年2月17日	評価確定日	平成22年4月9日

【情報提供票より】 (平成22年1月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年 4月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	22 人	常勤16人, 非常勤 6人, 常勤換算10人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	3階建ての	1~2	階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	20,000円	その他の経費(月額)	光熱水費 6,000円 暖房費(11~3月) 4,300円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (56,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	300円	昼食 200円
	夕食	400円	おやつ 100円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要 (1月1日現在)

利用者人数	18名	男性	4名	女性	14名
要介護1	1名	要介護2	5名		
要介護3	8名	要介護4	4名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 85歳	最低	61歳	最高	99歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	よいちクリニック、勤労者医療協会余市診療所、みずの歯科医院他
---------	--------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

同じ敷地内に、「助けたり、助けられたり」を根幹とする複数の福祉施設を有する運営法人は、平成15年に当ホームを開設し、7年目を迎えるとしています。家族会や運営推進会議のメンバーの方々を通し、地域の繋がりも年ごとに広がりを見せ、感謝の表れとして、運営法人主催の盆踊りを開催し多数の参加をいただいています。ホーム内の人間関係も良好の中、職員は理念に沿ってのケアサービスに努めています。

【重点項目への取組状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 改善課題である「栄養摂取、水分確保」は改善されていますが、「研修機会の確保、地域との連携、災害備蓄品の確保、重度化や終末期に向けての対応指針の整備」は、継続としています。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 職員は評価の意義や理解に努め、各自が項目を分担して評価を集約していますが、評価項目の意図とする理解不足や職員の評価が十分に反映されておらず、改善に向けての取り組みとしています。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 会議は柔軟なメンバー構成の下、2ヵ月毎に開催され、現状報告、介護事例、地域交流、外部評価の課題などが議題になっています。メンバーの要望で、地域向けの認知症ケア講習会開催やほかのホームの見学会を実施するなど、ホームの質の向上に繋がっています。
	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族の要望は、意見箱や「相談室」の設置、運営推進会議、家族会、家族来訪時や電話などで把握に努めています。外部評価での課題の一つである栄養摂取に対し、アンケートで家族の意向を集約し、具体的な改善に取り組んでいます。
重点項目	④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域の方々とは外出時での挨拶はもとより、併設のデイサービスや高齢者住宅の方々、さらに利用者の知人やボランティアの方々と交流、またホーム玄関前での子ども御輿の披露などがあります。運営法人主催の介護教室や盆踊りには多数の参加をいただいています。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	家庭的な環境の下、穏やかで楽しい尊厳ある、その人らしい生活を支える地域密着型サービスの意義を盛り込んだ理念を作り上げ、日々ケアサービスに取り組んでいます。低価格を掲げ、家族の経済的負担に配慮しています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム内に理念を掲示しています。さらに毎朝のミーティングでは、理念を唱和し、理念に沿った実践の確認に努めています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の方々とは外出時での挨拶はもとより、併設のデイサービスや高齢者住宅の方々、さらに利用者の知人やボランティアの方々と交流、またホーム玄関前での子ども御輿の披露などがあります。運営法人主催の介護教室や盆踊りには多数の参加をいただいています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員は評価の意義や理解に取り組み、各自が項目を分担して評価を集約していますが、評価項目の意図とする理解の不足感があります。職員の評価が自己評価表に十分反映されていません。外部評価での課題は、改善に向け具体策を検討しています。	○	評価の理解に繋がる方法の一つとして、サービス評価ガイドブックを参照に新たな視点で自己評価に取り組み、職員全員で検討されることを期待します。

余市町 グループホーム 延寿園

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は柔軟なメンバー構成の下、2ヵ月毎に開催され、現状報告、介護事例、地域交流、外部評価の課題などが議題になっています。メンバーの要望で、地域向けの認知症ケア講習会開催やほかのホームの見学会を実施するなど、ホームの質の向上に繋がっています。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	余市グループホーム連絡協議会参加時や町の窓口訪問時、ホームへの行政担当者の来訪時などで、ホーム運営に向けてのアドバイスをいただいたり、情報交換を通しホームの現状を報告する機会を確保しています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月ユニット毎に笑顔一杯の写真を掲載したお便りを発行し、裏面に担当職員や介護計画作成者から個人別の状況報告、さらに事務連絡を添え、金銭明細書と合わせて送付しています。家族来訪時には、担当職員から詳細を報告しています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の要望は、意見箱や「相談室」の設置、運営推進会議、家族会、家族来訪時や電話で把握に努めています。外部評価での課題の一つである栄養摂取に対し、アンケートで家族の意向を集約し、具体的な改善に取り組んでいます。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は、職員と利用者の馴染みの関係に配慮していますが、異動が生じた場合は、利用者との相性を考慮し担当職員の配置をしています。さらに馴染みの職員と新入職員を同じ勤務日程にするなど、利用者の不安を取り除く体制を整えています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は、職員の質の向上に繋がる外部研修の情報提供を行ない参加を促していますが、一部の職員のみ参加となっています。業務での実務指導は行なわれていますが、テーマを決めての内部研修は行なわれていないため、研修への取り組みは継続としています。	○	職員の質の向上に繋がる内部・外部研修の必要性を認識し、職員の段階的な研修機会の確保を予定していますので、取り組みに期待します。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者と職員は、余市グループホーム連絡協議会の勉強会に参加し、ほかのホームと積極的に情報交換を行なっています。さらに運営推進会議のメンバーと職員は、ほかのホームを見学しており、また、ほかのホームからの受け入れ要請があるなど、相互の関係により質の向上に繋げています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始以前にホームからの訪問や、利用者や家族のホーム見学を通して、意見や要望の把握に努めています。利用者と馴染みの関係作りに配慮しながら、時には家族の協力をいただき、徐々にホームに馴染める環境を整えています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者を人生の先輩として尊敬し、ケアサービスに努めています。利用者から戦争体験や生活の知恵などの教えに「ありがとう」の言葉を述べています。利用者からも日常業務で労いや感謝の言葉をかけていただくなど、信頼関係を築いています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの希望や意向は、暮らしの中での会話で把握していますが、思いを表すことが困難な利用者には、生活歴や家族の意見を参考に、表情や態度で推し量り、確認をしながら利用者の視点で捉えています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族の意向を把握し、さらに医療関係者の助言を踏まえ、個人別の介護記録をもとに会議で話し合いが行なわれ、理念に沿った利用者本位の介護計画を作成し、職員、家族の共有としています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は、1ヵ月の暫定プラン、3ヵ月毎に新たな視点で見直しを行ない、利用者一人ひとりに目標を立て、ケアサービスに取り組んでいます。利用者の状態変化時は、現状に合った新たな介護計画を作成していますが、実務を優先し、計画書作成が遅れる場合がありますので、改善に努めています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の要望に応じて通院介助や買物、理美容室同行、ふるさと訪問、家族対応の部屋の備え、地域住民の方々の介護相談受け入れなど、多様な支援を行なっています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	3箇所の24時間連絡体制の協力医療機関による月3回の往診が行なわれています。ほかの医療機関への受診は職員が同行しています。それぞれの診療内容は関係者の共有とし、利用者の健康管理は適切に行なわれています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	運営者は医療連携体制の導入に向けて検討中ですが、重度化や終末期に向けた対応指針や同意書の作成、関係者との段階的な話し合いの体制作りには至っていませんので、継続しての取り組みとしています。	○	ホームとして「出来ること」と「出来ないこと」を明確にし、医療機関や家族との連携強化、職員の技術習得も視野に入れた重度化や、終末期に向けた体制作りを期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、利用者のプライバシーや誇りを損ねるような言葉遣いや対応には、十分注意しています。特に、トイレ誘導、入浴時には羞恥心に配慮しています。個人記録も適切に管理し、取扱いに注意をしています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームとして一日の予定はありますが、利用者の心身の状態を把握し、利用者の意向に沿った支援を心掛けています。		

余市町 グループホーム 延寿園

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理専門職員が、利用者の好みを取り入れた献立を作成しており、利用者は、職員の見守りの下、一連の食事作業を行なっています。月に2回の調理実習は、利用者の能力が発揮できる場となっています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	男性、女性で曜日を変え、週2回以上の入浴支援を行っていますが、入浴時間や回数は、利用者の意向に沿い柔軟に対応しています。入浴日は、利用者と職員の会話が増す時間帯になっています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの得意分野や趣味を情報収集し、掃除や調理、縫い物などで役割を担っていただいています。外出行事（果物狩り、温泉）や四季折々の行事などは、利用者の気分転換に繋がっています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者のその日の体調や天候に配慮し、散歩や買物、日光浴、体操、歌、パークゴルフなどで外気に触れる機会を作っています。冬場は外出が困難になるため、工夫を施しての外出支援を検討しています。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	防犯上、夜10時から朝6時まで施錠していますが、日中は、職員の注意深い見守りを徹底し、自由に外出を楽しんでいます。		

余市町 グループホーム 延寿園

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	併設の高齢者住宅と合同の避難訓練を、夜間想定で年1回実施しています。広域避難場所や、消防署への直接通報機器の確認、屋内避難場所の確保などの取り組みが見られましたが、救命救急の受講、災害備蓄品確保や、地域との連携は十分とは言えません。	○	職員全員の救命救急の受講、災害備蓄品の整備と、あらゆる災害（地震、風水害など）を想定しての避難訓練を、年2回、地域住民の方々の協力をいただき実施されることを期待します。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員は、利用者一人ひとりの食事量や水分量をチェック表で把握しています。調理担当職員が、栄養バランスや食事形態に配慮した食事を提供しています。医師の指導による栄養補助食品や薬の投与を行ない、さらに水分補給で一日の不足分を補っています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は、採光や換気、空調に配慮していません。畳敷きのコーナーやロビーには、季節の花々や四季折々の飾り（おひなさま、五月人形など）、笑顔満載の延寿園便りが壁面に展示されており、家庭的な雰囲気を醸し出しています。利用者は、ソファークッションに横になったりと、思い思いの場所で寛いでいます。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には棚が設えられ、日用品が整理整頓されています。馴染みの家具や調度品を配置し、家族の写真や趣味の物が飾られ、居心地よく過ごせる部屋になっています。		

※ は、重点項目。